Infectious Diseases Weekly Report
IDWR HIROSHIMA City
2016年第18週（5月2日～5月8日）

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

■コメント

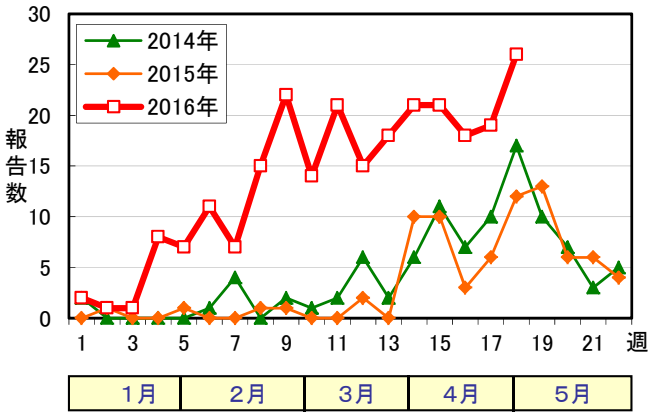
1．感染性胃腸炎（ロタウイルス）

感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）は、基幹定点から26人の報告があり、多い状況が続いています。

ロタウイルスは乳幼児におけるウイルス性胃腸炎の主要な原因であり、感染力が強いため、ごくわずかなウイルスが体内に入るだけで感染します。感染すると2～4日の潜伏期間の後、下痢や嘔吐、発熱などの症状を引き起こします。乳幼児は激しい症状が出ることが多く、特に初めて感染したときに症状が強く出るため、注意が必要です。

感染を広げないようにするには、オムツや吐物の適切な処理、手洗いの徹底などが重要です。

基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数



2016年第18週（5月2日～5月8日）は、ゴールデンウイーク期間中のため、医療機関の休診の影響で、実際の患者数よりも少なく報告されている可能性があります。

したがって、各疾患の増減の評価及び「定点把握感染症報告状況（週報対象）」（下表）の発生記号の表示を行っていません。

■定点把握感染症報告状況（週報対象）

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均（注）	発生記号
インフルエンザ	インフルエンザ	4	0.11	1.44	
小児科	咽頭結膜熱	8	0.35	0.32	
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	1.22	1.86	
小児科	感染性胃腸炎	95	4.13	7.64	
小児科	水痘	9	0.39	0.71	
小児科	手足口病	6	0.26	0.57	
小児科	伝染性紅斑	16	0.70	0.15	
小児科	突発性発しん	5	0.22	0.37	
小児科	百日咳	－	－	0.02	
小児科	ヘルパンギーナ	4	0.17	0.09	
小児科	流行性耳下腺炎	11	0.48	0.54	
小児科	RSウイルス感染症	－	－	0.09	
眼科	急性出血性結膜炎	－	－	0.03	
眼科	流行性角結膜炎	6	0.75	0.58	
基幹	細菌性髄膜炎	1	0.14	－	
基幹	無菌性髄膜炎	－	－	0.06	
基幹	マイコプラズマ肺炎	－	－	0.20	
基幹	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	－	－	－	
基幹	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	26	3.71		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1：2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1：1.5～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1：1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数（小児科定点を含む）	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

（注）過去5年間の同時期平均（定点当たり）

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	5	男性（50歳代）
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	3	女性（40歳代）

■定点把握感染症報告状況（週報対象）の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）
報告数	広島市	第14週	121	3	49	207	18	8	22	11	−	2	21	3	−	3	−	−	1	−	21
		第15週	79	11	45	234	8	−	25	12	−	−	10	3	−	2	−	−	−	−	21
		第16週	61	6	52	249	10	1	25	11	1	5	13	1	−	2	−	−	1	−	18
		第17週	34	5	56	220	6	2	13	16	−	5	13	8	1	6	−	−	1	−	19
		第18週	4	8	28	95	9	6	16	5	−	4	11	−	−	6	1	−	−	−	26
定点当たり	広島市	第14週	3.27	0.13	2.04	8.63	0.75	0.33	0.92	0.46	−	0.08	0.88	0.13	−	0.38	−	−	0.14	−	3.00
		第15週	2.14	0.46	1.88	9.75	0.33	−	1.04	0.50	−	−	0.42	0.13	−	0.25	−	−	−	−	3.00
		第16週	1.65	0.25	2.17	10.38	0.42	0.04	1.04	0.46	0.04	0.21	0.54	0.04	−	0.25	−	−	0.14	−	2.57
		第17週	0.94	0.22	2.43	9.57	0.26	0.09	0.57	0.70	−	0.22	0.57	0.35	0.13	0.75	−	−	0.14	−	2.71
		第18週	0.11	0.35	1.22	4.13	0.39	0.26	0.70	0.22	−	0.17	0.48	−	−	0.75	0.14	−	−	−	3.71
	全国	第16週	4.22	0.35	2.63	6.54	0.35	0.05	0.38	0.56	0.02	0.04	0.74	0.19	0.01	0.64	0.02	0.09	0.36	−	0.63
		第17週	2.51	0.40	2.41	5.98	0.36	0.06	0.34	0.55	0.02	0.05	0.80	0.15	0.02	0.68	0.02	0.03	0.47	0.01	0.61

■新たに判明した病原体検出状況

新たな検査結果はありません。

【参考】野山のダニによる感染症に注意しましょう
－ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）／日本紅斑熱／つつが虫病 －

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、SFTSウイルスを保有するマダニに吸着されることにより感染する病気です。主な症状は発熱や消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で、6日～2週間程度の潜伏期間を経て発症します。西日本を中心に、**マダニの活動が盛んな春から秋（4月～11月頃）にかけて患者が発生しています**。

また、日本紅斑熱やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。症状の主な特徴は、発熱、発しんで、ダニの刺し口も見られることがあります。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

・野山に入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、ダニの付着を防ぎましょう。

・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックしましょう。

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は医療機関を受診してください。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所　〒733-8650　広島市西区商工センター四丁目１番２号
TEL(082)277-6575　FAX(082)277-5666　E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp